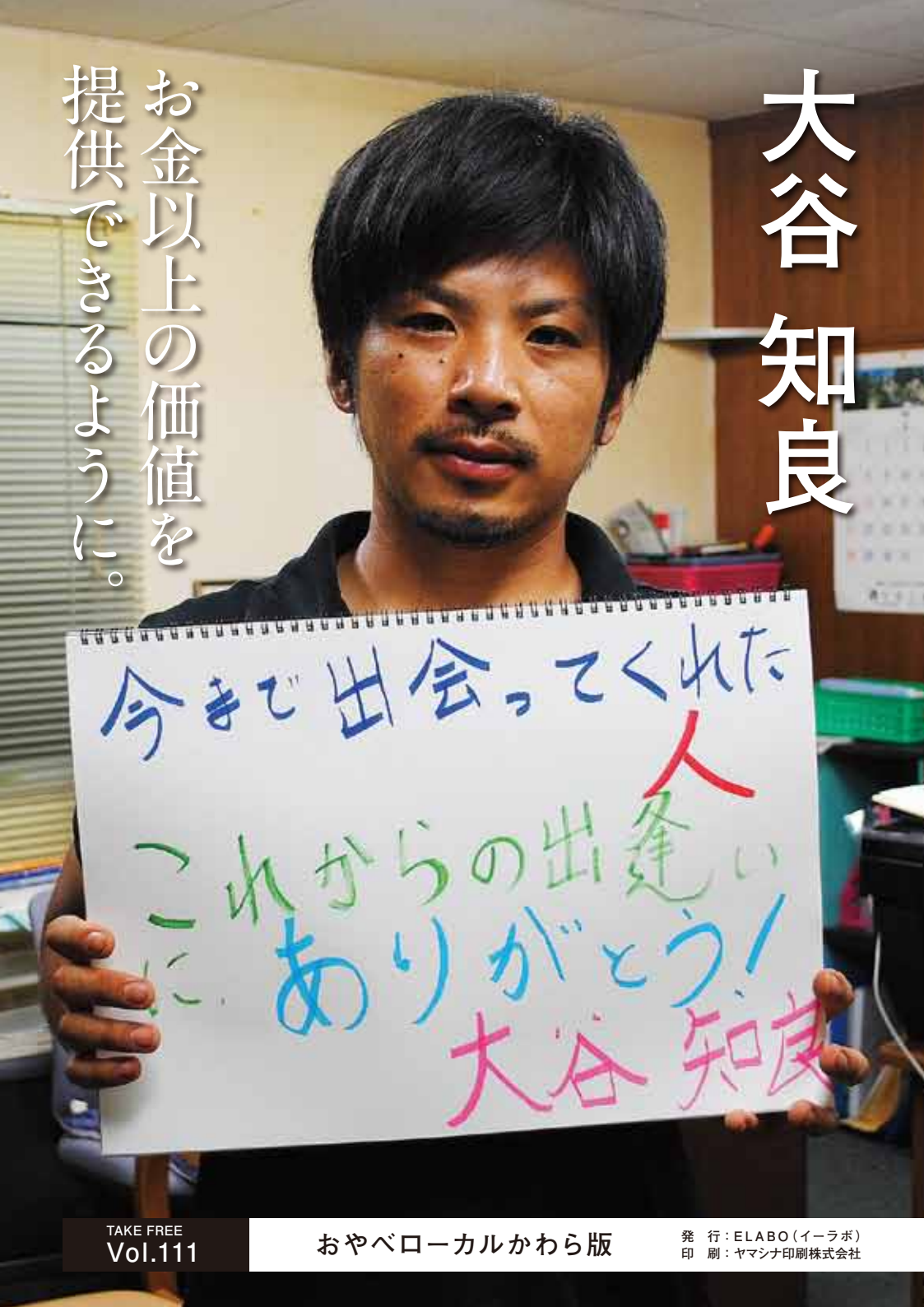


大谷 知良

お金以上の価値を 提供できるように。



「僕で2代目です。」
有限会社装研の大谷知良さん。住宅、工場の屋根、外壁、内装など全般的な塗装業を行っている。

「遮熱塗料の仕事で、県外の仕事も多いです。」
仕事は厳しい。

「それでも、たまに仕事じゃなくて、友人の結婚式のウェルカムボードの制作も引き受けます。」
本業の斜め上の活動。

「厳しい業界なんで、いろんなものを取り入れていけないといけない。沢山の繋がりを保持 tara と思っています。」

ここから対談形式の
取材となった。

(山：山科 大：大谷)

大：山科さんがかわら版をはじめた理由は何か？

山：自分の仕事を本気で見つめた時、本当の意味に気付いた。そして生まれたのが「おやペローカルかわら版」です。

大：嫌らしさが全くない。お金にならないことじゃないですか？そういうことを率先してできることはすごい。

山：「会社で一番大切なのは」と考えたときに継続することだと。利益を上げているから



継続しているのではなく、周りから存在して欲しいと思われているから継続できている。先義後利。だからこそ、続けていかなければならない。
大：こうやって繋がることで、いろんなことが学べることにすばらしい。
大：実は乗永寺の松永さんと同級生なんです。
山：乗永寺さんは、14歳の挑戦の時に取材しました。その時に朝活をやるうという話になり、僧職男子交流会というイメージで開催。
山：その時に「お経をあげても、誰にも会わず帰ることがある。そうじゃなく、僕がお経をあげると自然と顔を出してくれる、そんなお経を唱えた」と言われていました。
大：みんなここだけは譲れないものを持っている。

大：塗装も目に見えるところは誰でも綺麗にする。僕は目に見えないところ、覗かないと見えないところを綺麗にする。同業者が見ると「こんなところにもこだわっているんだって思ってもらえると「やった！」と思う。」
大：「あの人に仕事を頼むと料金以上に納得だ」と思ってもらえる人になりたい。
大：塗装は職人の世界です。受け継がれている教えはあります。
山：そういうえば、長島木材さんは、本物の大工を残すために仕事をしていると語っていた。
山：効率という名のもとに無くなる技術がある。未来に残す大事なものを守ることも大切。
大：塗りの技術は、何でも応用できる。たとえば携帯電話のケースや車もできます。いろんな答えがあると思うんですが、自分のスキルで新しいことにチャレンジしたい。
大：みんな地元で、いろんな生き方を生きている。例えば僕は塗装で生きている。何かを頼もう、助けてもらおうと思うと、地元の人に頼む。その距離感や、人の頑張りが分かりやすい、っていう環境を大切にしたい。

大：小矢部は好きです。僕は生まれてからずっと小矢部なので、愛着じゃないけど、嫌いついていたらダメだなって思っている。
山：自分の生まれた町を誇りに思う人が多い町って素敵。コラーレダイニングの池田さんは、高岡でも砺波でもなく、生まれ育った小矢部で成功したいと本物になれないと語っていた。

大：小矢部で生まれて、小矢部で頑張っている人はみんなすごいなあ。僕の周りには情に熱い人が多い気がします。(笑)

大谷 知良

昭和58年3月8日生

自分のスキルを磨くために鉛筆画を描いている。また誰にも見せていない。

有限会社 装研

T 93220105

富山県小矢部市胡麻島68

TEL：07666112110

FAX：07666112762